

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会（第 29 回）

議事要旨（案）

1 日時

平成 28 年 12 月 14 日（水） 15 時 00 分～ 17 時 00 分

2 場所

中央合同庁舎第 2 号館 11 階第 3 特別会議室

3 出席者（敬称略）

（1）構成員

多氣昌生（主査）、雨宮不二雄、石山和志、黒田道子、清水敏久、清水久恵、曾根秀昭、平和昌、田島公博、田中謙治、塚原仁、長谷山美紀、堀和行、山崎健一、山下洋治、渡邊聡一

（2）関係者

井上正弘、尾崎覚、小田明、上芳夫、徳田正満、前川恭範、松本泰、森博之

（3）事務局

坂中靖志（電波環境課長）、関口裕（電波利用環境専門官）、谷口智哉（電波監視官）、鮫島清豪（電波推進官）、柴田由里（電磁障害係長）、酒井健司（電磁障害係員）

4 議事

（1）前回議事要旨について

前回の議事要旨について、さらに修正意見があれば 12 月 21 日（水）までに事務局あてに連絡することとして承認された。

（2）資料 29-3 および資料 29-4 に基づいて CISPR 杭州会議総会及び各小委員会の審議結果（案）について報告された。総会は多氣主査、A 小委員会は田島委員、B 小委員会は清水委員、D 小委員会は塚原委員、F 小委員会は山下委員、H 小委員会は松本関係者、I 小委員会は雨宮委員から報告された。

主な質疑応答の概要は以下のとおり。

雨宮委員）LED ランプを使用した卓上用照明スタンドに WPT が付いていて、スマートホンやタブレットなどを充電できるものがすでにあるが F 小委員会で議論は始まっているか。

山下委員）F 小委員会では、所掌する範囲ものだけの議論しかしていない。給電側と受電側を分けて考えて、給電側は、家電や照明が入っていれば議論するし、受電側はマルチメディアだと議論しないと思う。

前川関係者）総会について中国のプレゼンテーションに対して非常に危惧し

ている。オランダとドイツから間接的にそんなのはいらないと出されたがまだ議事録に残っているので修正をお願いしたい。

多氣主査) どのようなネガティブな意見があったかを整理して修正意見を出すことがいいのではないか。

前川関係者) 9kHz から 150kHz の伝導妨害波の件に対して、SC77A WG8 では 2kHz から 150kHz のエミッション限度値の整備として測定方法等を検討しているが 2kHz から 9kHz は SC77A WG8 の範囲であるので自由に検討できる。しかし、9kHz から 150kHz については CISPR 規格の範囲なので遠慮している感じがしている。どちらが担当するかを明確にして欲しいと思っていたが今回の総会では議論されなかった。日本から提案してほしいと思う。

多氣主査) 9 月ごろの SC77AWG8 からの CISPR に対する回答では、コモンモードは考えないとなっている。無線業務の保護が不十分なものになってしまうので CISPR が全部ではないがやらないといけない状況と理解している。

井上関係者) 77A と CISPR の関係を明確にするには、ACEC に決めてもうしかないと思う。

兩宮委員) 過去に一度 ACEC で議論されて今の検討体制の状態となったと聞いている。

井上関係者) B 小委員会における WG2 の解散について DC 文書が回付されるが CISPR/TR18 の審議において日本からのコメントで 14 件中 4 件が不採用となっているがコンビーナーから次回のメンテナンスで採用したいとあるので解散されると議論する場がなくなってしまう。

多氣主査) 日本の考えとしては、解散することに対しては否定的である。

尾崎関係者) 会議でも積極的に解散する意見はなかった。

(3) CISPR におけるワイヤレス電力伝送システムの検討に関連して、本年 11 月に行われた ITU-R の WP1A 及び WP1B について、事務局より報告された。

5 今後の予定

事務局から次回の委員会については、主査と相談の上、別途日程調整をする旨、連絡があった。

【配付資料】

資料 29-1 電波利用環境委員会 (第 28 回) 議事要旨 (案)

資料 29-2 電波利用環境委員会報告概要 (案) (CISPR 杭州会議の結果について)

資料 29-3 電波利用環境委員会報告 (案) (CISPR 杭州会議の結果について)

資料 29－4 CISPR 杭州会議 総会及び各小委員会審議結果（案）